

第 15 回（1/21）最終回 総括討論 ——若者文化をどうみるか

1. 期末成績評価について（再掲）

【出席状況】（配点 30 %）。

＊ 注意：出欠についての考え方 ×出席してれば単位くる…

【授業参加の積極度】（配点 30 %）

BBS への投稿回数・内容、授業中の発言や質問、提出物の提出状況などにもとづいて、授業参加の積極度を総合的に評価します。

【期末レポート】（配点 40 %）

講義内容に関連するテーマを、各自の関心に即して自由に設定してもらいます（分量 3,000 字以上）。授業内外で吸収した知識をもとに、自らの思考を駆使して社会科学的に考え抜いた痕跡がどれだけ反映されているかの点を評価のポイントとします（たんなる感想文や、文献・Web からの引用の継ぎはぎでは低い評価となります）。

講義内容に関連するテーマを、各自の関心に即して自由に設定し、

- 論者の主張の要点をまとめる（1,000 字程度）
- それに対するあなた自身の考察・見解を述べる（2,000 字以上）

分量： 3,000 字以上 （表紙不要、学籍番号と氏名を明記、ステープルで留めること）

提出日： 定期試験日 2 月 4 日（火）13:20～14:20 10-11 教場にて提出

「考察・見解」の評価基準：

論証（問い、主張、根拠…）がしっかりなされているか、問題を自らの思考によって（自分のあたまを使って）、論理的に分析した痕跡がどれだけ反映されているかの点を評価基準とします。

※ 事後提出は認めません（やむを得ない事情により試験日当日に出席できない場合は事前に連絡を！）

※ レポートが提出されない場合、レポート評点は 0 点となります

※ 学内内規により総得点が 59 点以下の場合、成績は「不可」となります

2. BBS 投稿から

「私は結婚はしたいと思っている。理想は経済力があってしっかりして優しい人と結婚できたらいいと思うが、相手が周りから反対されるような人にだとしてもその時 本当に好きだったら結婚してしまうのではないかなとも思った。誰かの為に結婚するのではなく 自分のために結婚するのだと思う。」

「結婚と恋愛は同じだと思う。恋愛は好きな人と付き合っただけで一緒にいる時間が楽しくて、お互い好きだ。単に好きな人と付き合っただけではなく、将来ずっとそばにいる人お互い好きだ。好きじゃない人と結婚できない。子供は夫婦関係として大事だと思う。子供育てることが大変ですが、幸せだ。」

「結婚は恋愛の延長だと思う。だからただ単に相手が自分にとって都合の良い人間だからという理由だけで結婚したら間違いなく長続きしないと思うし、長続きするには結婚前にたくさんの時間を過ごしてそれから夫婦になるべきだ…。」

「「なぜ子供を作るのか？」なぜと聞かれたら色々考えたくなる私でも、理屈っぽい言葉で表すのが難しく、子ども作るのに難しい理由は必要ないのではないかと思う。けれど私が「子供を欲しい」と思う理由としては 子供が好きなのはもちろんで、他人の子供でもあれだけ可愛いのに自分の子供となったらおそらく感じたことのない未知の感情を抱くと思う。母親からよく話を聞くのでそれを味わってみたいと思う。結婚の条件としては、結婚するからには子供を欲しいと思うのでその子供のために条件をあげる。この人との子供が欲しいという最低限の愛情と人間性、子供を不自由なく暮らせる経済力が必要。最悪、自分と相手との関係より子供を大切にしてくれれば良い。いくら愛情があっても愛情だけでは結婚はできない。できないと言える私でいたい…。」

「結婚にはなんとなく「自分の周囲に頼れる誰かがいる安心」を求めている。ただ、班での議論を続けていて、「これは結婚というかたちにこだわらなくても幸せになれるのかもしれない」と気づき、「本当はわたしは結婚しなくてもよいのでは？」と自分の意見がわからなくなってしまった。子供をもうけることには肯定的な気持ちになれない。なぜなら、自身を取り巻いてきた教育環境に少々問題があったり、生命を守り育てることに大きな不安があるためである。個人的には「自分自身を守ることも難しいのに、子供の責任を負うほどの器がないから子育てにネガティブな印象を抱いてしまう」という意見にとっても納得できた。」

「結婚と恋愛は違うものだと思う。恋愛はただ単に好きな人と付き合っただけで一緒にいる時間が楽しくて、お互い好きで一緒にいたいと思えば簡単に付き合うことができるけれど、結婚ってのはめったに お互い好きだけでは簡単にできない。いくら好きであっても、親からもいいって思われるような相手でなければなかなか結婚はできない。だから、結婚したいかってなるとすぐにしたいとは思えないのかなと思った。」

「恋愛は自由にできる、結婚は人生が関わる」

「私は結婚したいとは思わない。最近是不倫や風俗関係の話が Twitter によく書かれていたりするのを見て、交際相手に対する不信感を抱きやすいと思います。だから恋愛に手を出さない人が増えていると思います…。」

「結婚と恋愛は異なることだと思う。いくら好きでもいざ結婚して一緒に住むとなると、結婚する人は最初から家族ではなく別人であるため、今まで気にしなかったちょっとしたルールが違って気になってしまうなどどうしても合わない点も出てくるのではないかな。また、ちょっと前まではお見合い婚が当たり前であり、お見合い婚の方がお互い何も知らない状態から始まるため離婚率も低いというデータもある。現代の日本では自由な恋愛をしてそのまま好きな人と結婚するという考えが定着しているのから結婚と恋愛が結びつくのかなと思った。」

「結婚と恋愛は異なると思うし、結婚は恋愛の延長線上にないと思う。恋愛は相手が好きならできるが、結婚は相手のことを好きだけではなく、相手の家族のことや自分たちの将来が関わってくる。また、一緒に生活してみても見えるものもある。好きだから、結婚に踏ん切れるというのは違うと思う。」

「結婚は正直あまり深く考えたことはありません。その時に決めても、後悔したところでやり直そうと思えばやり直すことが出来るからです。ですが、出産となり命が関わればしっかりと慎重に考えなくてはならないと思います。また、好物件であれば私は迷わず結婚すると思います。何年も付き合った好きな人で条件も完璧であれば、迷うことがないと思いました。」

「結婚や出産は個人の意思がなければできないことだと思うので、強制されることではないと思います。結婚や子どもを出産したことで 精神的ストレス や 社会の現状 などではそれができない人もいると思うので何でもかんでもすればいいものとは思わないです。」

「結婚したいと思うけど、子供は欲しいとは思わない。しっかり育てていける自信がない。」

「高物件なら断る理由がないのですぐに結婚したいけど、子供は躊躇うと思う。自分の親を見てきて、親が今まで自分にしてくれていたことを思い返して、自分がそのように子供を育てられる自信がない などと思った。恋愛と結婚も違うかなと思う。私は現実的に慎重に考えてしまうタイプなので、好きという感情だけで結婚したり子供を産んだりではできないと思う。」

「女性だから結婚、出産をしなければいけないという世の中ではなくなってきたから好きな方を選べるのはいいと思う。子どもを産みたいとは思いますが、待機児童問題があつたりすることを考えると働きたくても働けない。そうすると育児が投げやりになってしまう可能性があると思ったので産まない方がいいのかなって思った。」

「子育てという言葉聞いて、大変というイメージがついてしまっているが、女性も社会に進出している世の中になって来ている事で、自分のやりたいことを自由に出来るようになったから結婚したいと思う女性が減ってきていると思う。」

「社会の制度によって 結婚、出産におけるメリットがないため結婚、出産をしない人が増えているのだと考えた。今までは結婚、出産が当たり前であったが今はそうではないし、別の選択をすることが異常ではなくなってきた。結婚、出産が大切なことならば社会ももっと力を入れるべきだと思う。」

「少子化は叫ばれてるけど、子育ての問題はとて多いく、子どもを産み難い世の中 だと思う。待機児童問題とか、子どもの貧困とか、解決されない問題ばかりあるので、正直子どもを欲しいとは思えない。またお金の問題もあって、今の時代共働きじゃないと養育費が足りないだろうし、仕事と子育ての両立は本当に大変だと思う。結婚についても、お金の面とか家族間の事とか不安要素が多くなかなか踏み切れないと思う。お金があつて性格がいい相手でも、兄弟がいなくて、将来 親の介護をしないといけないとなると、結婚したいと思えないかもしれない。結婚も出産もリスクが多い世の中だと感じる。」

「子育てにも向き不向きがあると思う。最近、児童虐待のニュースが結構流れている気がする。これらを見て親になることへの強い責任感がないと子供は産んではいけないんだなと思った。今、婚活サイトとかの CM が流れたりしているが、それほど結婚って人間の一生のなかで重大視されるものなんだなとつくづく思う。」

「結婚も子供も、どちらも経済的な面でまだまだ未熟なところもあるし将来の先行きが分からない不況の国なのでそんなに真面目に考えられない。今生きるのが精一杯なのにする意味もない気がする。物件扱いをしてしまうのは、そういった感情論で解決できるような生半可なものではないというのが言葉自体に如実に現れているのではないだろうか。」

「私は結婚はその時の恋人次第だと思っていて、子どもに関しては よっぽど遺伝子を残したい！と思わない限りはいらないと思っている。20年間生きてきて自分の遺伝子を残したいと思えなくなり、親が私にしてくれた事を振り返っても私にはその自信が無いから、いらないかなと思った…」

「私は結婚したいとは思いたくはないと思わない。結婚したいと思える相手ができたらしたいし、そう思える相手が

いないならなくていい。また、子供についてだが、最近は少子化について話題になることも多い。だが、少子化ではなく 少母化 なのではないかと思う。最近は結婚しないという人も増えているので、まず子供を産むという人が少なくなっているのではないかと思う。」

「現在、日本の子どもの数は年々減少している。これには?非正規や低賃金等の経済的理由、?子育て支援の制度や福祉の整備が十分でない、周りから理解を得られない等の環境的理由、?子どもを育てたくない・産めない等の個人的理由の三つの理由があると考えられる。また、このような個人ではどうしようもない問題に加えて、「子どもを産むことは義務である」などといった相反する意見に挟まれることで、さらに子どもを産むことに対して躊躇してしまうだろう。このような背景によって少子化が進んでいるのである。」

ほか多数

過去の投稿から

「今は 家族という概念が形骸化 しているように思います。それぞれが思い思いに何かをしていて孤立化 しているからです。」

「私の固定概念に、いつかは結婚して子供を産むことが当たり前 なんだろうなあ、という意識があるから結婚はするものだと思っていたが、近年はそうでない女性も多くいる ことも知り、それが全てではない ということも十分に理解できた。しかし、親孝行のひとつとして孫の顔を、ひ孫の顔を見せてあげたいという目標があるので、婚活をしてでもお見合いをしてでも結婚をして子供をいつかは産みたいと考えている。しかし、これだと 子供が目的の手段でしかないように聞こえる が、あくまで 愛のある結婚 をしたい。」

「私は結婚して子供を産むというのが自分の中で当たり前と思っていて、30 歳超えても結婚相手が見つかってなかったら、絶対婚活など考えるだろう。独り身で死んで行くのは絶対嫌だ。」

「私は結婚もしたいし、子供も欲しいです。そしてそれは私にとっての夢であり、幸せです。しかし結婚をしないことが幸せという人も中にはいると思います。何を基準に幸せと思うかは人それぞれだし、自分が結婚や子供を産むことを幸せと思っているからといって他人にまでそれを押し付けるのは違う気がします。自分が幸せと思う選択は自分が一番わかっていると思います。」

「結婚することが女性の 1 番の幸せと考えられていたのは、女性が経済力をもたなかったため学歴があり収入がいい男性と結婚をすることで良い生活を手に入れられるとされていたから だと思います。しかし現在では女性の社会進出が進み、女性が自立して過ごすことのできる時代です。少子高齢化から分かるように昔よりも現代では結婚の優先順位が下がっています。わたし自身結婚したくないということはないですがまず、仕事に向き合いタイミングが合えば結婚をしたいと考えています。子供に関してもすべてタイミングで タイムリミットがきてしまったならそれはそれでしょうがない などと思っています。」

「いつ彼氏を作って、何年付き合って、何歳に結婚したいという計画をする人もいるが、多分計画のどおり行かないケースが多いかもしれない。縁はいつ来るかわからないものですから計画出来ないが、一方計画できる子供に対しては、一応親になった以上(妊娠の段階も含む)、責任をきちんと持つべきだと思う。」

「私は結婚をして子どもも欲しいと思っています。自分のライフステージの中で結婚、出産、仕事が今後大きく自分を変えて行くものだと思います。結婚してから子供を産みたいことと、仕事にタイムリミットはあまりないと感じますが、出産にはタイムリミットがあると思うので自分の中で結婚の優先順位は高いです。しかし、仕事と結婚と出産全てを両立する事は今の社会では難しく、女性の社会進出を嬉しく思う反面、どれかを選択しなければならぬ事の生きづらさ も感じています。」

「20 代のうちに結婚して後に子を産んで、家を買って、子供にそれなりの学歴をもたせるようにして、あいかわらず

夫婦関係も順調で、親の介護もそれなりにできていて、子が結婚して孫ができて…全部が全部そろわないまでも、一般的に幸せのモデルとされるような人生設計を叶えることが今の社会でどれだけ難しいか考えました。一般的といったとおり、これは世間一般、人が個人で考えるようなものではなくて、単なるくだらない型だと思います。私達は 強い自分の意志がないと世間一般の幸せと言われるものを軸にしがち だけど、自分の意思をもたなくてはならないし、自分なりに幸せとはなにか、本当は、よくよく考えてみたらどうするのがベストか 吟味しなくてはならないとおもう。特に 子供に関しては、どう考えても産み育てることが今の社会では困難すぎる と思っている。幸せしかない、子のために付く困難も幸せのうちだと考えられていたりもするが、概念が軸になっているせいで単なる美談的な要素にまみれてしまっていないかなど、メリットデメリットを現実的に物理的に考えるべきだと思う。また、それぞれ幸せに感じるものの種類は人によって異なるのだから、一般的な幸せが全ては叶わない社会の中、自分の人生設計においてはどの幸せに重きをおいて選択するのが重要 だと思う。」

3. 改めて、論理的思考について

4. 総括討論：若者文化をどうみるか

→配布資料（広田照幸編著、2008、『若者文化をどうみるか？』アドバンテージサーバー、pp. 4-27）

5. エピローグ

→配布資料：「考える力」（「大学生を勉強させる『現実的』な方法」）

- すでにある知識を組み合わせる新しいことを生み出す力
- 問題を分解・分析して解決策を導く力
- さまざまな新しい情報を既知の知識と組み合わせる状況判断する力

6. 授業評価アンケート

以 上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

【BBS】 <http://9021.teacup.com/tenomoto4/bbs>